

科目名 (英)	生 物 学 (Biology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 3時限(1組)4時限(2組)
【授業の学習内容と心構え】 歯科大学・歯科衛生士専門学校において基礎医学の経験があり、歯科界において教育・研究を有する教員が授業を行う。歯科衛生士のスペシャリストを目指すために、基礎医学の基本的知識を身につけ、専門知識の応用力を習得する授業を行う。生物学としてヒトについて学び、生命活動の基礎的仕組みを考え、人間も環境に適応しながら生存する生物の一員であることを受講してほしい。							
【到達目標】 生命化学は生物学を基本とした学問分野ですが、生物学の知識と応用の延長に歯科医学の基礎をつくる解剖学、組織学、生理学、生化学などを理解しやすくするための基礎的知識の習得を目標とします							
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本 生物学 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版				【授業外における学習】 専門用語が煩雑に出てくるので、あらかじめ教科書を読み、予習して来ること。また、参考図書として『絵でわかる生物学の不思議』講談社を見てください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 生命とは何か 生命の誕生 生命の変遷 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・生物がもつ特徴について説明できる ・生命体を作る物質の起源について説明できる ・生命が進化した道筋を説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 組織と細胞 ① 生物は細胞からできている 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・細胞をつくる物質を説明できる ・水の特徴と、細胞における水の役割を説明できる ・生命の単位・細胞、細胞内小器官・蛋白質・核酸・糖質・脂質等の役割を説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 組織と細胞 ② 生物は細胞からできている 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・細胞の一生を説明できる ・単細胞生物と多細胞生物を説明できる ・人の組織は4種類あるを説明できる ・人の器官を説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 生命の連続 ① 生殖によって子孫をつくる 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・生殖の方法を説明できる ・減数分裂を説明できる ・動物の配偶子形成について説明できる ・配偶子は個性的であることを説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 生命の連続 ② 遺伝と遺伝子 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・遺伝とその法則を説明できる ・生命を作る仕組みについて説明できる ・遺伝子を働かせる仕組みについて説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 生命の連続 ③ 発生して体をつくる 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・発生の過程について説明できる ・発生は受精卵が始まるについて説明できる ・発生をすすめる仕組みについて説明できる ・ボディプランに関係する遺伝子について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 環境と動物の反応、刺激の需要と内部環境を保つ仕組み 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・動物の感覚器の仕組みを説明できる ・多細胞生物の体液の仕組みを説明できる ・自律神経とホルモンの協調作用 ・動物の行動と進化について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 評価は、筆記試験でおこなう。授業内で確認した、専門的な知識の理解、定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモを取ること。講義においてノート丁寧にとること。							

科目名 (英)	化学 (Chemistry)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 1組:2時限・2組:1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 化学を専門分野とし、企業の研究所で化合物の分析業務に従事し、その後、本校及び他専門学校、高校で長年化学系の科目を教えてきた教員が、歯科衛生士の実務に必要な化学の基礎を教える。化学物質を扱う職業である以上、化学物質を正しく取り扱うための基礎知識は必要不可欠であることを意識して学んでほしい。							
【到達目標】 歯科衛生士の実務に必要な化学の基本知識を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本「化学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版				【授業外における学習】 教科書をよく読み、ノートを見て授業の復習をすること。			
回				回 授 業 概 要			
1 【授業単元】原子と元素、周期表 【授業形態】 講義 【到達目標】 重要な元素の性質や元素記号を覚え、原子の構造や周期表について理解する。							
2 【授業単元】 原子の結合と分子、結晶 【授業形態】 講義 【到達目標】 共有結合、イオン結合、その他の結合と分子、結晶について理解し、重要な物質の化学式を覚える。							
3 【授業単元】 物質量(モル)と分子量 【授業形態】 講義 【到達目標】 物質量(モル)、原子量、分子量、式量について学び、簡単な計算ができるようになる。							
4 【授業単元】 溶液の濃度 【授業形態】 中間試験及び講義 【到達目標】 中間試験を行うことにより、前回までの授業内容の定着度の確認を行う。残りの時間で、溶液の基本について学び、理解する。							
5 【授業単元】 溶液の濃度計算 【授業形態】 講義 【到達目標】 質量パーセント濃度やモル濃度について理解し、基本的な濃度計算ができるようになる。							
6 【授業単元】 酸と塩基、pH 【授業形態】 講義 【到達目標】 酸と塩基、それぞれの分類、酸性、塩基性、pHについて理解する。							
7 【授業単元】 酸化・還元 【授業形態】 講義 【到達目標】 酸化反応と還元反応、金属の性質について理解する。							
8 【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義及び定期試験 【到達目標】 全体の復習で知識の確認をした後、定期試験を行い、授業内容の定着度を確認する。				【評価について】 評価は筆記試験で行う。中間試験40点と定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 講義はよく聞き、板書したことはノートに取ること。							

科目名 (英)	英会話 (English Conversation)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 1組:水曜日 4時限 2組:水曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 滋慶学園の英語教育に長期にわたって携わり、Active Learningに取り組んできた英語教員が、授業を担当する。 高校までの英語教育と異なり、学生が海外研修などで外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、 流暢でなくとも意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることを目的としたコミュニケーション主体の授業を行う。							
【到達目標】 英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面や職場などで簡単な英語コミュニケーションができるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 Speak Now 1				【授業外における学習】 予め教科書を読み、予習してくる。また、授業後復習をし、より確実に身につけることが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】L1 L2 挨拶 【授業形態】講義 【到達目標】 クラスオリエンテーション 挨拶ができる 自己紹介ができる 他人を紹介できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】L6 好き嫌いの表現 【授業形態】講義 【到達目標】 好き嫌いを表現できる 相手に好みを尋ねることができる 相手に質問で返すことができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】L9 L10 家族 性格 【授業形態】講義 【到達目標】 家族のことを話せる (人)の性格を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】中間試験 【授業形態】講義 【到達目標】 復習 中間試験(40点) 試験解釈				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】L21 数字 L23 頻度に関する表現 【授業形態】講義 【到達目標】 頻度について質問できる 頻度を説明できる 値段について質問できる 値段を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】L27 食習慣 L28 食べ物・注文に関する表現 【授業形態】講義 【到達目標】 食習慣について説明できる 食べ物について質問できる 食べ物を説明できる レストランで注文できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】L32 将来形の表現 【授業形態】講義 【到達目標】 将来のことについて質問できる 将来のことを説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】定期試験 解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】 定期試験 (60点)				【評価について】 評価は、筆記試験で行う。授業内で学習した内容の定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。		
【特記事項】 毎回、教科書を持参すること。また、講義において、ノートを丁寧にとること。							

科目名 (英)	歯科医療倫理学 (Dental Medical Ethics)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 3時限(1組)2時限(2組)
【授業の学習内容と心構え】 地域保健学、医療管理学が専門であるが、多くの学会あるいは研究機関でヒトを対象とした医学研究倫理審査委員会の設立・運営に関わってきたことを踏まえて、歯科医療倫理を幅広く講義していく。そして、将来、歯科衛生士として国民の保健医療福祉に関わるにあたり、必要な歯科保健医療における医療倫理について主として学ぶこと意識して欲しい。そのため、必要な知識・態度を得るための場として授業があることについて十分理解して授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 歯科医療を担う歯科衛生士として、必要な医療倫理の基本的事項について説明することができるようになる。 医療を受ける人への倫理的・人的配慮ができるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 第2版 医歯薬出版株式会社 講義時間ごとにプリントを配布				通常日常生活では使わないが、医療現場ではかなり重要な言葉も多く、確実に教科書とを読めるようにしておくことが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 なぜ医療倫理を学ぶのか 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科衛生士が医療倫理を学ぶ理由を述べることができるようになる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 医師中心の医療から患者中心の医療へ 【授業形態】 講義 【到達目標】 患者の権利と患者の自己決定権について概要を述べるようになる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 インフォームド・コンセント 【授業形態】 講義 【到達目標】 医療におけるインフォームド・コンセントについて、概要を説明できるようになる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 中間試験、医の倫理に関する国際的規範 【授業形態】 筆記試験・講義 【到達目標】 解答できない事項を抽出して、これらについての理解を高める。 医の倫理に関する国際規定についての概要を説明できるようになる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 生命倫理と生命倫理原則 【授業形態】 講義 【到達目標】 生命倫理[Bioethics/バイオエシックス]の成り立ちおよび原則論の概略を述べるができるようになる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 生命の始まりと終わりに関しての倫理 【授業形態】 講義 【到達目標】 リプロダクティブ・ライト(Reproductive right)について母性の観点から考察できるようになる。 ターミナルケアにおける倫理的配慮について概略を述べるができるようになる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 医療倫理まとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 医療は、誰のために、どのような目的をもって行われるかについて述べるができるようになる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験・試験後の解説 【授業形態】 筆記試験・講義 【到達目標】 解答できない項目を再度抽出し、自己理解の低い点を明確にして、臨床実習現場あるいは資格試験の際に対応できるようにする。			【評価について】 評価は筆記試験で行なう。授業内で、確認した基本的事項についての理解・定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則に準じる。			
【特記事項】 毎授業で、配布した資料は整理して、いつでも見返すことができるようにしておくこと。授業中に、必ずプリントは完成させておくこと。							

科目名 (英)	キャリアデザインⅠ (Career DesignⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	富澤 麻友子 宮内 侑莉
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期 水曜日 1組 4時間/2組 3時間
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 歯科衛生士として臨床経験のある教員が授業を担当する。自分の進路選択に対し、「間違っていなかった」と確信してもらえるような授業にしたい。歯科衛生士として社会に出るために必要な一般常識、考え方を養ってもらいたい。自己理解をして、他者理解ができるような「受容の姿勢」で積極的な参加をしてほしい。							
【到達目標】 歯科衛生士という専門職のプライドを持ち、長く働ける人材となるように、考え方や人間関係(コミュニケーション)、自己理解、他者理解を総合的に学ぶ。協働の視点を持った歯科衛生士になれるように、社会人基礎力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 『ハンドブック オブ ライフスタイル』 基本の筆記用具は必ず持参のこと				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 勉強法の基本 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 これまでの学習法を見直し、歯科の専門的な学習にも対応できる方法を発見する。 授業を受けていくにあたり適切な準備が整えられるようになる。 チームを使用した授業の受け方を確認する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 衛生的手洗い 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 医療人になる基本を身に着ける。 ハンドケア実習				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 社会人マナー・基本について 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 社会人のたまごとして、どのような身だしなみ、立ち振る舞いが必要かを理解し、実行できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験 自己分析 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 科目前半の到達確認				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 自主学習の計画 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 中間試験を踏まえ、自主学習の方法を見直す。自分に合う自主学習の方法を考え今後の学習方法を決定する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 清潔・不潔とは 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 医療従事者としての基本の清潔域不潔域を理解する。実習室の正しい取り扱いを学ぶ				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 伝える力とは 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯磨き大会に向けブラッシング方法の知識を確認し、児童にわかりやく伝える方法を考え演習する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 科目後半の到達確認				【評価方法について】 筆記試験にあわせ、出席率、実習態度、提出物を加味して評価します		
【特記事項】							

科目名 (英)	キャリアデザインⅠ (Career DesignⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 1組:木曜日4時限/2組:木曜日1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 臨床経験のある教員が授業を担当する。自分の進路選択に対し、「間違っていなかった」と確信してもらえるような授業にしたい。歯科衛生士として社会に出るために必要な一般常識、考え方を養ってもらいたい。自己理解をして、他者理解ができるような「受容の姿勢」で積極的な参加をしてほしい。							
【到達目標】 歯科衛生士という専門職のプライドを持ち、長く働ける人材となるように、考え方や人間関係(コミュニケーション)、自己理解、他者理解を総合的に学ぶ。協働の視点を持った歯科衛生士になれるように、社会人基礎力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
『ハンドブック オブ ライフスタイル』 基本の筆記用具は必ず持参のこと							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
9	【授業単元】 マネー教育① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 何のために働くのか、自分の考えを整理することができる 求人票から歯科業界の現状を読み取る			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
10	【授業単元】 マネー教育② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人生設計を行うため、働いたお金の使い道を列挙することができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
11	【授業単元】 自己分析 【認知特性①】 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 自分の認知特性を把握し、自分にあった学習法を計画することができる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
12	【授業単元】 中間試験、解答解説/〔認知特性②〕 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 科目前半の到達確認 自身の勉強方法の効果測定を行い、見直すことができる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
13	【授業単元】 多職種理解① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 多職種連携の必要性が理解できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
14	【授業単元】 他者理解・多職種理解② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 診療室に来院する様々な患者さんの背景を想像し、それぞれに合わせた対応を考えることができる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
15	【授業単元】 多職種理解③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 他職種の強みを理解し、歯科との連携を考えることができる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
試験	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 科目後半の到達確認			【評価方法について】 筆記試験にあわせ、出席率、実習態度、提出物を加味して評価します			
【特記事項】							

科目名 (英)	一般解剖学(組織発生学含む)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(General Anatomy)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 1組:2時限・2組:3時限
学科・専攻	歯科衛生士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 大学歯学部を卒業し、大学院にて歯学博士を修得しつつ15年間一貫として歯科口腔外科・一般歯科領域の臨床・研修・教育・経営に携わってきた講師が該当科目を担当する。解剖学は歯科・医学を学ぶ上で最初の基礎的項目であり、1学年目にとっては超えなくてはならない最初の登竜門と言って良い。後で覚えれば良いという発想は最初のつまづきの始まりであり、今、ココで、出来るまで覚える気持ちで講義を利用して理解を深めて欲しい。							
【到達目標】 ・国家試験の範囲はもちろんのこと、歯科/医科関係なく世の方々に医療従事者を目指す学生として恥ずかしくない医学的基礎知識を理解できる。丸覚えで数百を単語を機械的に無機質に覚えているだけでなく、ちゃんと理解しようとする。もっと知りたいと思える状態を目指す。							
【使用教科書・教材・参考書】 解剖学・組織発生学・生理学 歯科衛生学シリーズ 医歯薬出版				【授業外における学習】 毎回授業中にノートを取り、自身でそれを肉付けする。生涯に渡りその内容を利用するつもりで一回限りの授業に望む意識を高める。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 解剖学概論 【授業形態】 講義 【到達目標】 解剖学とは何かを理解し説明できる。また、解剖で基本となる基礎的な用語と考え方を理解できる。			9	【授業単元】 呼吸器・生殖器 【授業形態】 講義 【到達目標】 1日で呼吸器と生殖器に関する形態的・機能的ポイントを理解できる		
2	【授業単元】 骨学 【授業形態】 講義 【到達目標】 骨の形態と機能、全身骨格の位置と代表的なポイントを理解できる			10	【授業単元】 細胞学 【授業形態】 講義 【到達目標】 細胞学全般に関する形態的・機能的ポイントを理解できる		
3	【授業単元】 筋学 【授業形態】 講義 【到達目標】 筋肉の形態と機能・特徴、さらに全身的筋肉の位置やポイントを理解できる			11	【授業単元】 組織学 【授業形態】 講義 【到達目標】 組織学全般に関する形態的・機能的ポイントを理解できる		
4	【授業単元】 消化器学 【授業形態】 講義 【到達目標】 消化器の種類、位置、構造と機能のポイントを理解できる			12	【授業単元】 染色体と減数分裂・精子と卵子の発生 【授業形態】 講義 【到達目標】 細胞分裂から発生の基本に関する形態的・機能的ポイントを理解できる		
5	【授業単元】 循環器学 【授業形態】 講義 【到達目標】 血管と循環器全般に関する形態的・機能的ポイントを理解できる			13	【授業単元】 受精と着床・胚葉形成 【授業形態】 講義 【到達目標】 受精から胚葉形成に至る全般に関する形態的・機能的ポイントを理解できる		
6	【授業単元】 感覚器 【授業形態】 講義 【到達目標】 感覚器に関する形態的・機能的ポイントを理解できる			14	【授業単元】 胎児の成長と発育 【授業形態】 講義 【到達目標】 胎児と成長発育全般に関する形態的・機能的ポイントを理解できる		
7	【授業単元】 神経学 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経学に関する形態的・機能的ポイントを理解できる			15	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 9-14までの講義項目について中間試験を実施し、後半に解説講義と課題整理を行う。		
8	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 1-7までの講義項目について中間試験を実施し、後半に解説講義と課題整理を行う。			【評価方法について】 評価は筆記試験にて行う。講義内で確認した専門的知識の理解と定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 講義は90分間をテンポよくインプット/ダウンロード/アウトプットに時間を分け、確実に知識のアップデートが行える環境を整える。							

科目名 (英)	生理学 (Physiology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	前期 木曜日 3時限(1組)2時限(2組)
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
生理学に精通する歯科医師が、歯科衛生士に必要な生理学の授業を行う。私たちの生体に備わるそれぞれの臓器の働きを理解し、どのような仕組みで調節されているかを学び、来院する患者さんを理解する。							
【到達目標】							
細胞の機能を知ること、臓器の働きを理解し、生体の機能を理解する。血液、肺、神経、筋により調節され維持されている生命機能を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学(医歯薬出版)				復習			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】細胞の作りと働き 【授業形態】講義 【到達目標】 細胞の作りと働きDNA,RNA等を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】物質の移動 【授業形態】講義 【到達目標】 拡散、浸透、能動輸送を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】血液の生理 【授業形態】講義 【到達目標】 血液の組成、機能を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】血液の生理 【授業形態】講義 【到達目標】 免疫、止血等のシステムを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】循環の生理 中間試験レポート 【授業形態】講義 【到達目標】 心臓の作りと働きの特徴を知る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】循環の生理 【授業形態】講義 【到達目標】 心電図の基本を理解する。血管の構造、働きを知る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】栄養と代謝 【授業形態】講義 【到達目標】 糖質、脂質、タンパク質の代謝過程を知る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】 7回分の講義内容の試験				【評価方法について】 中間試験 定期試験で評価する		
【特記事項】							

科目名 (英)	生化学 (Biochemistory)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 1組:木曜日4時限 2組金曜日4時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科大学・歯科衛生士専門学校において基礎医学の経験があり、歯科界において教育・研究を有する教員が授業を行う。歯科衛生士のスペシャリストを目指すために、基礎医学の基本的知識を身につけ、専門知識の応用力を習得する授業を行う。身体をつくっている各種構造物の分子レベルでの理解から、体内での動的な活動としてエネルギー代謝や物質代謝、そして遺伝子や細胞内情報伝達の働きまで学びます。							
【到達目標】 1. 生命を構成する基本物質の構造および生体内代謝を説明できる。 2. 細胞の基本構造を学び、それらと細胞の機能、増殖および分化との関係を説明できる。 3. 遺伝に関する基本事項を習得する							
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版				【授業外における学習】 専門用語が煩雑に出てくるので、あらかじめ教科書を読み、予習して来ること。また、参考図書として イラストレイテッド 生化学 園田 勝編 羊土社を見てください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 栄養と代謝 生体の構成要素 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・細胞の構造や細胞小器官の役割について説明できる ・生体反応における水の働き説明できる ・生体構成成分と栄養素について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 生体における化学反応 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・栄養素の消化と吸収について説明できる ・酸素の運搬と二酸化炭素排出について説明できる ・細胞内代謝について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 糖質と脂質の代謝 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・エネルギー代謝の全体像について説明できる ・糖質の代謝とエネルギーの生成について説明できる ・脂質の代謝とエネルギーの生成について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 タンパク質とアミノ酸の代謝 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・中間試験 ・タンパク質がアミノ酸として吸収する事を説明できる ・アミノ酸の代謝分解過程を説明できる ・タンパク質が合成される過程を説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 生体における恒常性の維持 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・体内の内部環境が安定に維持される恒常性(ホメオスタシス)を、血液のpHと血糖値の調節を例として概説できる ・ホルモン系と自律神経系について概説できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 歯と歯周組織の生化学 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・歯と歯周組織を説明できる ・結合組織の組成と機能を説明できる ・歯の組成を説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 硬組織の生化学 ① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・血清中のCaとリン酸の調節機構について説明できる ・石灰化の仕組みについて説明できる ・骨の形成と吸収を説明できる ・歯の脱灰と再石灰化を説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 評価は、筆記試験でおこなう。授業内で確認した、専門的な知識の理解、定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモを取ること。講義においてノートを丁寧に取ること。							

科目名 (英)	口腔解剖学(歯牙解剖学含む)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Oral Anatomy)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 1組3時限/2組4時限
学科・専攻	歯科衛生士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 歯科医師免許を有し、日々歯科診療業務に従事している講師が授業を担当する。前期の一般解剖学の知識を踏まえて、頭頸部領域の解剖をより専門的に学習する。解剖学から歯科衛生士の歯科臨床業務に必要な知識の習得を目標にする。また、発生・組織学を学ぶことで歯牙や歯周組織の構造を正しく把握し、生理学や生化学と結びつけられるような理解力を育む。							
【到達目標】 ヒトの歯の種類とそれぞれの歯の構造と機能の違いを把握し、簡潔に説明できるようになる。 頭頸部および口腔に関する解剖学について知識を習得し、その働きや機能について理解する。 実習や視覚的資料などを通じて知識の確認をすることで勉強意欲の向上を図る。							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学(医歯薬出版) 口腔顎顔面解剖ノート(学建書院)				【授業外における学習】 授業範囲がとて広いため試験前にまとめて復習することは困難であることから、授業後には授業時間と同程度の時間をかけて復習することを推奨する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 顎顔面骨学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・頭頸部の骨を15種すべて列挙できる。 ・内頭蓋底と外頭蓋底の構造物とその通過物を答えられる。 ・縫合や副鼻腔など重要な解剖学的知識を身につける。			9	【授業単元】 乳歯解剖学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・乳歯の歯牙の特徴を理解する。 ・乳歯と永久歯の形態異常を覚える。 ・歯の鑑別ができるようになる。		
2	【授業単元】 頭頸部運動学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・頭頸部の筋肉について理解する。 ・咀嚼筋を4つ列挙することができる。 ・筋肉を栄養する動脈と動かす支配神経を理解する。			10	【授業単元】 歯周組織解剖学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・歯周組織4つを述べるようになる。 ・歯周組織の断面図を書けるようになる。		
3	【授業単元】 頭頸部神経学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・12本の脳神経を分岐の順番に正しく答えられる。 ・三叉神経の枝について理解する。 ・顔出の脳神経についてはその働きと分岐を正しく覚える。			11	【授業単元】 歯牙組織学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・歯牙の組織学的な構造を正しく理解する。 ・エナメル質と象牙質の成長線と構造物を理解する。		
4	【授業単元】 頭頸部脈管学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・頭頸部の動脈の走行について理解する。 ・脳を栄養する動脈を3つ列挙することができる。 ・外頸動脈の枝を順番に述べるようになる。			12	【授業単元】 歯周組織学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・歯周組織の組織学的な構造を正しく理解する。 ・それぞれの歯周組織の特徴をおさえ、歯科臨床に応用できる知識を身につける。		
5	【授業単元】 口腔軟組織学／顎関節学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・唾液腺の種類と構造の違いについて理解する。 ・口腔内の基本的な構造を適切に把握する。 ・顎関節の基本的な構造を理解する。			13	【授業単元】 口腔発生学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・鰓弓の発生と発生異常について学習する。 ・歯牙と歯周組織の発生の流れを述べられる。 ・エナメル質の形成を正しく理解する。		
6	【授業単元】 口腔解剖学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・頭頸部領域の骨学、神経学、脈管学、運動学を統合的に理解する。 ・問題演習を通じて解剖学の知識を深める。			14	【授業単元】 口腔解剖学実習 【授業形態】 実習 【到達目標】 ・顎顔面部の観察をする。 ・口腔内観察を通じて解剖学的知識の確認をする。		
7	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・第1回から第6回までの習熟度を確認する。			15	【授業単元】 期末試験、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・第8回から第14回までの習熟度を確認する。		
8	【授業単元】 歯牙解剖学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・歯牙の基本的知識を身につける。 ・歯式を正しく理解し、活用できるようになる。 ・永久歯の外形構造とその機能について理解する。			【評価方法について】 評価は筆記試験(記述問題と選択問題)で行う。 筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 講義・演習態度が不良および提出物の未提出がある場合は減点になるので注意すること。			
【特記事項】 授業は配布資料を基に進行するため、授業内で必ず穴埋めやメモを行うこと。							

科目名 (英)	口腔生理学 (Oral Physiology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	後期 木曜日 1組3時限/2組2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 生理学に精通する歯科医師が、歯科衛生士に必要な口腔生理学の授業を行う。口腔領域に存在する諸器官の正常な機能がどのように発現し維持されているか理解する。							
【到達目標】 歯科医学領域において特に重要な顎、顔面及び口腔諸機関の運動機能(咀嚼、嚥下、嘔吐、発声)や感覚機能(味覚、触覚)そして自律機能(唾液分泌)の調節や生理学的役割を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学(医歯薬出版)				【授業外における学習】 復習			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 消化吸収 【授業形態】 講義 【到達目標】 消化吸収の仕組みを理解する			9	【授業単元】 歯と口腔の感覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①口腔における感覚の種類を説明できる。②口腔感覚の伝達経路を説明できる。③口腔粘膜感覚を説明できる。④歯の感覚を説明できる。⑤味覚と味物質の種類を説明できる。		
2	【授業単元】 内分泌 【授業形態】 講義 【到達目標】 内分泌線とホルモンの働きを知る			10	【授業単元】 味覚と嗅覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①口腔における感覚の種類を説明できる。②口腔感覚の伝達経路を説明できる。③口腔粘膜感覚を説明できる。④歯の感覚を説明できる。⑤味覚と味物質の種類を説明できる。		
3	【授業単元】 内分泌 【授業形態】 講義 【到達目標】 内分泌線とホルモンの働きを知る			11	【授業単元】 咬合の仕組み 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①咬合と下顎位について説明できる。②顎反射の種類とその役割を説明できる。③咀嚼運動の特徴と役割を説明できる。		
4	【授業単元】 呼吸の生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸の仕組みを理解する			12	【授業単元】 咀嚼と吸嚥の仕組み 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①咬合力(咀嚼力)と咀嚼能率の測定法を理解して咀嚼能力の評価法を説明できる。		
5	【授業単元】 筋肉の生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 筋収縮の仕組みを理解する			13	【授業単元】 嚥下と嘔吐の仕組み 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①嚥下と嘔吐に関わる構造について説明できる。		
6	【授業単元】 骨の生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 骨形成、骨吸収の仕組みを知る			14	【授業単元】 唾液の生理学的役割 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①唾液腺の種類と性質の違いを説明できる。②唾液の分泌機構を説明できる。③唾液の性状と成分について説明できる。④唾液の働きを説明できる。		
7	【授業単元】 神経の生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経細胞の基本的な作りを理解する			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験 定期試験で評価する			
【特記事項】							

科目名 (英)	口 腔 生 化 学 (Oral Biochemistry)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	後期 曜日・時間 1組:木曜日4時限 2組:水曜日3時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科大学・歯科衛生士専門学校において基礎医学の経験があり、歯科界において教育・研究を有する教員が授業を行う。歯科衛生士のスペシャリストを目指すために、基礎医学の基本的知識を身につけ、専門知識の応用力を習得する授業を行う。歯科分野における特異的な歯、歯周組織、唾液、プラーク(歯垢)の構成成分を学び、口腔内に生じる現象を生化学的に理解できることを適応する。							
【到達目標】 1. 唾液の成分とその機能について基本的知識を習得する。 2. プラークによって生じる口腔疾患および齲蝕の発生機序と予防についての基本的知識を分類する。 3. 歯周病の発症に関わる物質および細菌を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版				【授業外における学習】 専門用語が煩雑に出てくるので、あらかじめ教科書を読み、予習して来ること。また、参考図書として 口腔生化学 早川太郎、須田立雄 医歯薬出版を見てください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】硬組織の生化学② 生体における化学反応 【授業形態】講義 【到達目標】 ・ 血清Ca調節に関与する、副甲状腺ホルモン(PTH)、カルシトニン、ビタミンDの活性化と働きを説明できる ・ 歯の脱灰と再石灰化を説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】唾液の生化学 【授業形態】講義 【到達目標】 ・ 唾液の無機質や有機質の種類を列挙できる ・ 唾液中の無機質の作用を理解できる ・ 唾液中の有機質の作用を理解できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】プラーク生化学① 【授業形態】講義 【到達目標】 ・ 唾液の無機質や有機質の種類を列挙できる ・ 唾液中の無機質の作用を理解できる ・ 唾液中の有機質の作用を理解できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】栄養の基礎知識 ① 中間試験 【授業形態】講義 【到達目標】 ・ 健康維持と増進について説明できる ・ 食物摂取基準について説明できる ・ 栄養素の基本について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】栄養の基礎知識 ② 【授業形態】講義 【到達目標】 ・ 健康維持と増進のために、栄養の概略を説明できる ・ 食物摂取における栄養上の問題点を列挙できる ・ 栄養素の消化と吸収の基本を説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】食物摂取基準と栄養素の働き 【授業形態】講義 【到達目標】 ・ 食物摂取基準とは何かを説明できる ・ 脂肪のエネルギー比率を概説できる ・ 糖質、蛋白質、脂質等の生体での役割を概説できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】食生活と健康 【授業形態】講義 【到達目標】 ・ 食生活改善で歯科衛生士としての役割を概説できる ・ 食品の機能性(栄養、嗜好・感覚)について概説できる ・ 健康づくりのための食事計画の進め方について学習する			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】 【到達目標】			【評価について】 評価は、筆記試験でおこなう。授業内で確認した、専門的な知識の理解、定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモを取ること。講義においてノートを丁寧に取ること。							

科目名 (英)	病理学 (Pathology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 1組2時限/2組1時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科大学附属病院で病理診断業務に従事する教員が、医療従事者となるうえで必要な病理学総論的知識・専門的医学用語を習得する授業をおこなう。 ならびに、歯科衛生士を目指すうえで必要な口腔病理学の知識(口腔に発生する疾患の分類・診断法・自然史)を習得する授業をおこなう。 超高齢社会である本邦において、国民の健康寿命を延伸させるために歯科衛生士の社会的な必要性・重要性は非常に高まっている。 「生命」を扱う職業に就く、そのことを十分に理解して全ての講義に臨んでほしい。							
【到達目標】 各講義の内容を、講義時間内に理解できていることを到達目標としてください。 (そのため講義中は集中するとともに、疑問点や理解しにくい点があった場合には躊躇せずすぐにその場で質問し、解決を図ること) (「理解できている」とは具体的に、他者に講義の内容を口頭で説明することができる、です)							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 病理学・口腔病理学(全国歯科衛生士教育協議会)配布プリント				【授業外における学習】 教科書を1回通読してみてください。興味のある点、疑問を抱く点が出てくると思います。それらをさらに調べるなどして、自ら知識を広げてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 病理学序論と病因論、遺伝性疾患と奇形 【授業形態】 講義 【到達目標】 病理学とはどのような学問か説明できる。 外因と内因を分類できる。 遺伝性疾患を原因の別で分類できる。			9	【授業単元】 口腔粘膜の病変、口腔癌 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔粘膜上皮の組織学的性状を説明できる。 口腔粘膜の病変を原因の別で分類できる。 口腔癌について理解する。 口腔癌と他の臓器癌との違いを説明できる。		
2	【授業単元】 循環障害、代謝障害、退行性病変 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液・体液の循環の仕組みを説明できる。 循環障害を列挙できる。 退行性病変とは何かを説明できる。 退行性病変を列挙できる。			10	【授業単元】 口腔領域の腫瘍、嚢胞 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔癌以外の腫瘍性病変を列挙できる。 嚢胞とはどのような病変か、説明できる。 口腔領域の嚢胞を、原因、発生部位の別で分類できる。		
3	【授業単元】 進行性病変 【授業形態】 講義 【到達目標】 進行性病変とは何かを説明できる。 進行性病変を列挙できる。			11	【授業単元】 顎骨の病変 【授業形態】 講義 【到達目標】 上下顎骨について、肉眼解剖学的な特徴を説明できる。 正常な骨組織の性状を説明できる。 顎骨に生じる病変を原因の別で分類できる。		
4	【授業単元】 炎症と免疫、腫瘍 【授業形態】 講義 【到達目標】 炎症とは何か、免疫とは何かを説明できる。 炎症の5徴候を列挙できる。 免疫を司る細胞群を列挙できる。 腫瘍とは何かを説明できる。			12	【授業単元】 唾液腺の病変 【授業形態】 講義 【到達目標】 大唾液腺、小唾液腺を列挙できる。 唾液腺の組織学的性状を説明できる。 唾液腺に生じる病変を原因の別で分類できる。		
5	【授業単元】 歯の発育異常、歯の損傷と着色・付着物 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯の発育異常を列挙できる。 歯の損傷を分類できる。 歯の付着物を列挙できる。			13	【授業単元】 口腔領域に生じる奇形 【授業形態】 講義 【到達目標】 奇形の定義を説明できる。 口腔領域に生じる奇形を原因の別で分類できる。		
6	【授業単元】 う蝕、象牙質・歯髄複合体の病変 【授業形態】 講義 【到達目標】 う蝕の疫学、原因、組織学的な変化を説明できる。 象牙質・歯髄複合体とは何かを説明できる。 象牙質・歯髄複合体の病変を列挙できる。			14	【授業単元】 口腔の加齢変化 【授業形態】 講義 【到達目標】 加齢に伴う口腔諸組織の変化を説明できる。 高齢者の口腔ケアの際に、注意すべき事項を列挙できる。		
7	【授業単元】 歯周組織の病変 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯周組織を列挙でき、かつ図示できる。 歯周組織の病変を列挙できる。			15	【授業単元】 試験定期、終了後の試験解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 不正解問題から、理解できていない部分を抽出する。 抽出された点を講義時間内にすべて解消する。		
8	【授業単元】 中間試験、終了後の試験解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 不正解問題から、理解できていない部分を抽出する。 抽出された点を講義時間内にすべて解消する。			【評価について】 評価は筆記試験でおこなう。講義における知識の理解、定着度を確認する。 中間試験(40点)、定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 到達目標で記載したとおり、講義内での質問、ディスカッションを歓迎します。 遠慮することなく、講義への能動的な参加を希望します。							

科目名 (英)	薬理学 (Pharmacology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 1組4時限/2組3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 歯科医師や歯科衛生士を養成する教育機関で、長年にわたって教鞭を執ってきた教員が授業を担当する。重要科目の一つである薬理学・歯科薬理学の専門的な知識と応用力を身につけてもらえる授業を行うので、歯科医学・歯科医療の進歩に呼応できる高資質の歯科衛生士を目指して、授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 歯科領域で使用される薬物について、歯科衛生士としての必須の基礎知識と応用力を身につけ、臨床の場でそれらを正しく活用できる能力を修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 『疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版株式会社) ・配付する授業用プリント				【授業外における学習】 専門用語が頻繁に出てくるので、あらかじめ教科書やプリントをよく読み、予習する。講義後は復習し、学習したことをより確実に身につけるようにする。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 医療と薬物 【授業形態】 講義 【到達目標】 薬物療法の種類と薬理作用の基本形式、薬理作用の分類、薬物の作用機序を説明する			9	【授業単元】 中枢神経系作用薬 【授業形態】 講義 【到達目標】 全身麻酔薬と催眠薬、向精神薬、抗けいれん薬、抗パーキンソン病薬、中枢神経興奮薬を説明する		
2	【授業単元】 薬物の適用方法と薬物動態(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 薬物の適用方法を習得する 薬物動態(1)(吸収・分布・代謝)を説明する			10	【授業単元】 末梢神経系作用薬・局所麻酔薬・痛みと薬物 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経伝達物質と自律神経系作用薬を述べる 局所麻酔薬を説明する 麻薬性・非麻薬性鎮痛薬、解熱性鎮痛薬を説明する		
3	【授業単元】 薬物動態(2)と薬理作用に影響する因子(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 薬物動態(2)(排泄)を説明する 薬物動態パラメーターについて説明する 薬理作用に影響する因子(1)を述べる			11	【授業単元】 抗炎症薬 【授業形態】 講義 【到達目標】 ステロイド性抗炎症薬を述べる 非ステロイド性抗炎症薬を説明する 抗ヒスタミン薬(ヒスタミン受容体遮断薬)を説明する		
4	【授業単元】 薬理作用に影響する因子(2)と薬物の相互作用 【授業形態】 講義 【到達目標】 薬理作用に影響する因子(2)を述べる 薬物の相互作用(協力作用と拮抗作用)を説明する			12	【授業単元】 呼吸、循環、血液と薬物 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸器系に作用する薬物を述べる 循環器系に作用する薬物を説明する 止血薬と抗血栓薬を述べることができる		
5	【授業単元】 薬物の運用／ライフステージと薬物 【授業形態】 講義 【到達目標】 薬物の運用による問題点(蓄積・耐性・依存)を述べる ライフステージ毎(小児・高齢者・妊婦)の薬物投与を述べる			13	【授業単元】 消毒薬 【授業形態】 講義 【到達目標】 消毒薬の作用機序を述べることができる 消毒薬の効果に影響する因子を説明する おもな消毒薬を説明する		
6	【授業単元】 薬物の副作用と有害作用／医薬品と日本薬局方 【授業形態】 講義 【到達目標】 薬物の副作用と有害作用を説明する 医薬品と日本薬局方および局方医薬品を説明する			14	【授業単元】 抗菌薬 【授業形態】 講義 【到達目標】 抗菌薬の基本的事項と作用機序を説明する おもな抗菌薬を説明する 抗ウイルス薬を説明する		
7	【授業単元】 医薬品医療機器等法 【授業形態】 講義 【到達目標】 医薬品医療機器等法を説明し、毒薬と劇薬、麻薬、向精神薬、覚せい剤、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品等を述べる			15	【授業単元】 定期試験 解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する		
8	【授業単元】 薬物の取扱い 中間試験 解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 処方せんを説明する 薬物の保存方法を述べる 剤形、その他を述べる			【評価について】 評価は筆記試験で行う。筆記試験は、中間試験(40点)と(60点)の定期試験合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 授業には、教科書とプリントを忘れずに持参する。また、予習と復習もこれらを使って行う。							

科目名 (英)	微生物学 (Microbiology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 1組3時限/2組4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 研究者として口腔微生物を取扱い、歯科医師として臨床に携わっている教員が、医療従事者にとって重要な感染予防を実践するために、全身的な感染症・免疫・感染予防に関する知識を習得する微生物学の授業を行なう。また、歯科衛生士にとって診療に必要な口腔内の感染症に関する知識を習得する口腔微生物学の授業を行なう。正しい知識で臨床に於いて院内感染予防や患者説明のできる歯科衛生士となしてほしい。							
【到達目標】 医療従事者にとって重要な感染予防を実践するために、全身的な感染症・免疫・感染予防に関する知識を微生物学の授業を通して習得する。歯科衛生士にとって臨床の現場で必要な口腔内の感染症に関する知識を口腔微生物学の授業を通して習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学				【授業外における学習】 シラバスに目を通し、予め授業内容を把握しておく。自分でまとめた授業プリントを中心に、教科書を参考にしながら復習する。常日頃からニュースをチェックし流行している感染症の情報をアップデートする。			
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要				
1	【授業単元】 微生物学概論・細菌培養・顕微鏡観察 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・微生物学の歴史を述べる。 ・微生物の分類を列挙する。 ・細菌培養・観察方法を列挙する。	9	【授業単元】 口腔微生物学概論・口腔感染症① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・口腔細菌叢の特徴を述べる。 ・プラークの成り立ちを説明する。 ・感染症としての齲蝕発生メカニズムを説明する。				
2	【授業単元】 微生物学各論① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・真菌の特徴を述べる。 ・細菌の特徴を述べる。 ・それぞれの病原性細菌の特徴を説明する。	10	【授業単元】 口腔感染症② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・歯周病の分類を列挙する。 ・各歯周病の原因菌と特徴を述べる。				
3	【授業単元】 微生物学各論② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・それぞれの病原性細菌の特徴を説明する。	11	【授業単元】 口腔感染症③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・口腔または顔面領域に症状を伴う主な感染症を述べる。 ・口腔内細菌と全身感染症の関連を述べる。				
4	【授業単元】 微生物学各論③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・ウイルスの特徴を述べる。 ・それぞれの病原性ウイルスの特徴を説明する。	12	【授業単元】 化学療法 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・微生物学の観点から化学療法薬を説明する。				
5	【授業単元】 免疫学① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・宿主防御機構を述べる。 ・免疫機構を説明する。	13	【授業単元】 感染対策① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・感染対策について述べる。 ・歯科診療上において留意すべき院内感染への対策を説明する。				
6	【授業単元】 免疫学② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・液性免疫について述べる。 ・細胞性免疫について述べる。	14	【授業単元】 感染対策② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・滅菌・消毒に関する正しい知識を習得する。 ・各滅菌・消毒法を説明する。				
7	【授業単元】 免疫学③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・免疫の観点からアレルギーの特徴を説明する。 ・アレルギー性疾患を述べる。	15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 定期試験を通して、理解できている部分と理解できていない部分を把握する。				
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 中間試験を通して、理解できている部分と理解できていない部分を把握する。	【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業内で習得した知識の理解度・定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					
【特記事項】							

科目名 (英)	口腔衛生学Ⅰ (Preventive Dentistry and Public Dental HealthⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 1組4時限/2組3時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科医師であり、現在も歯科大学で教鞭をとる教員が、広く人々の健康状態を高め生活の質を向上させることのできる歯科衛生士の育成を目的に講義を担当する。 必要な知識である歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因について、またその要因を除去し口腔の健康と機能の維持増進を図る手法に関する講義内容となる。 受講する学生は、社会に貢献できる歯科衛生士を目指し意欲的に講義に参加してほしい。							
【到達目標】 口腔衛生の定義を述べることができる。 基礎医学領域である歯・口腔の構造、成長、発育、機能について説明することができる。 歯・口腔の付着物、沈着物の特徴を列挙することができる。 口腔清掃法、不適切な方法による有害作用、用いる用具、歯磨剤、洗口剤の特性について説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
『最新衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』 配布プリント				返却された小テストは内容を振り返り、知識を理解、定着させておくこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】歯・口腔の健康と予防 【授業形態】講義 【到達目標】 国家試験を意識した日々の学習方法を習得する。 「口腔の健康と予防」の方法を列挙し、分類することができる。 「口腔の健康と予防」に関わる健康づくりを列挙することができる。			9	【授業単元】う蝕のメカニズム 【授業形態】講義 【到達目標】 う蝕発生のメカニズム、発生要因について具体的に説明することができる。		
2	【授業単元】歯・口腔の構造 【授業形態】講義 【到達目標】 歯の構造と組成を述べることができる。 歯周組織の構造を述べることができる。 唾液腺の構造、機能を説明することができる。			10	【授業単元】う蝕活動性試験、う蝕の予防法 【授業形態】講義 【到達目標】 う蝕活動性試験の検体、評価法について説明することができる。 う蝕リスク分類の活用方法を説明することができる。 う蝕予防法を区分することができる。 う蝕予防法を発生要因によって類別することができる。		
3	【授業単元】歯・口腔の発生と成長・発育 【授業形態】講義 【到達目標】 歯と口腔の発生を類別することができる。 歯の形成、萌出時期を正しく述べることができる。 カルシウム代謝に関与するホルモンの働きを説明することができる。			11	【授業単元】フッ化物応用① 【授業形態】講義 【到達目標】 わが国のフッ化物応用について列挙することができる。 フッ素の一般特性について述べることができる。 フッ化物の急性毒性と慢性毒性の違いを述べることができる。 フッ化物の局所応用法と全身応用法を例示することができる。		
4	【授業単元】歯・口腔の機能 【授業形態】講義 【到達目標】 摂食・嚥下運動の流れを列記することができる。 日本語語音を調音部位と調音方法によって区分することができる。 歯科、口腔領域の疾患と全身の健康の関連について説明する			12	【授業単元】フッ化物応用② 【授業形態】講義 【到達目標】 フッ化物の具体的な応用方法を述べることができる。 フッ化物のう蝕予防の関わるメカニズムを説明することができる。 ライフステージに応じたフッ化物応用法を提示することができ		
5	【授業単元】歯・口腔の付着物、沈着物 【授業形態】講義 【到達目標】 ペリクル、プラーク、歯石の組成と形成機序を対比し、説明することができる。 舌苔、外來性色素沈着物について特徴を列記することができる。			13	【授業単元】歯周疾患の予防 【授業形態】講義 【到達目標】 歯周疾患の炎症の広がり段階的に説明することができる。 歯周疾患のリスクファクターを列挙することができる。 歯周疾患の予防法、定期健診の重要性を述べることができる。		
6	【授業単元】口腔清掃 【授業形態】講義 【到達目標】 口腔清掃法を区分することができる。 ブラッシング法を列挙することができる。 ブラッシング、歯間部清掃に用いる器具、用具の特性を説明することができる。			14	【授業単元】口腔内疾患、異常の予防 【授業形態】講義 【到達目標】 口内炎の分類、要因について述べることができる。 口腔癌の実態、要因について説明することができる。 不正咬合、顎関節症、口臭の分類をすることができる。 口腔乾燥症の要因について説明することができる。		
7	【授業単元】歯磨剤と洗口剤 【授業形態】講義 【到達目標】 不適切な口腔清掃による有害作用を列記することができる。 歯磨剤、洗口剤の組成を列挙することができる。			15	【授業単元】定期試験 試験終了後解答、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 国家試験の問題形式に慣れる。 弱点領域を認知し、克服する。		
8	【授業単元】歯科疾患の疫学/中間試験 【授業形態】講義 【到達目標】 う蝕、歯周疾患、その他口腔疾患の疫学的特性を具体的に述べる			【評価について】 評価は筆記試験(マークシート)で行う。試験は、講義内で学習した知識の修得を確認する内容とする。評点は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計から算出する。			
【特記事項】 遅刻、早退、欠席のないようにする。やむを得ずそのような事態となった場合には、講義内容を同級生や配布プリントから必ず確認しておくこと。 講義時には、教本と配布したプリントを持参すること。							

科目名 (英)	衛生学・公衆衛生学 (Public Health)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 1組1時限/2組2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 衛生学・公衆衛生学を学び地域保健活動にも取り組み住民の健康増進に取り組んできた大学(日本大学松戸歯学部)教員(歯科医師、歯科衛生士)が、健康と予防医学の概念および人間を取り巻く自然的・社会的環境要因と健康との関係、集団を対象とした疾病予防と健康増進について理解し、行動できる歯科衛生士を育てることを目的に講義を進める。口腔の保健問題は常に全身的、全人的観点から考え、扱ってゆく必要がある。我が国における母子保健、学校保健、産業保健、感染症対策、環境問題、障害者保健を理解し、国際保健にも目を向けて、広い視野を持って学習に取り組む。							
【到達目標】 人間の健康問題と環境との相互関係を理解し、それを人間集団の現象としてとらえ、そのレベルから疾病の予防、健康の増進などを考え、実行してゆくことを学ぶ。 ライフステージにおける健康の関わり、社会の関わりを理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 保健生態学				【授業外における学習】 事前に教科書を読み現在、各項目の中で何が問題であるのかについて学修しておく。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 公衆衛生について、健康の定義について、ヘルスプロモーションについて 【授業形態】 講義 【到達目標】 衛生・公衆衛生の歴史と現状、健康をめぐる動向、公衆衛生の進め方の基本を知り、その全体像を把握する。			9	【授業単元】 母子保健の概要 母子保健事業について 【授業形態】 講義 【到達目標】 妊産婦と健康な子供の育成、および児童などの健康の保持増進と、健康的な生活を行うための教育活動を学ぶ。		
2	【授業単元】 人口統計について 人口問題について 【授業形態】 講義 【到達目標】 公衆衛生学的な立場から人口問題の重要性を、また、人口の高齢化をもたらす諸問題について理解する。			10	【授業単元】 学校保健 【授業形態】 講義 【到達目標】 学校保健の意義を理解し、保健教育、保健管理、健康組織活動を中心に理解する。		
3	【授業単元】 健康と環境Ⅰ 環境の概念 空気・水と健康 【授業形態】 講義 【到達目標】 環境の重要性を理解する。健康と環境の関係を理解し、疾病予防や健康の保持増進に寄与する条件について考える。			11	【授業単元】 産業保健 トータルヘルスプロモーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 人の一生の間で産業に携わる期間は長く、その間の健康障害は大きな影響を及ぼすので、原因を分析し、その対策の現状を概観する。		
4	【授業単元】 健康と環境Ⅱ 地球環境の変化と健康への影響 【授業形態】 講義 【到達目標】 地球規模で発生している環境破壊への対応を考える。廃棄物(処理含む)について対処できるようになる。			12	【授業単元】 成人保健 生活習慣病について 【授業形態】 講義 【到達目標】 成人および高齢者の保健上、重要な健康障害とその特徴を知り、予防について知識を深め健康管理のあり方、対策の現状について考える。		
5	【授業単元】 感染症の成り立ち 感染症予防 【授業形態】 講義 【到達目標】 感染症の発生、流行の三大要因(感染源、感染経路、宿主の感受性)について対策を学ぶ。			13	【授業単元】 介護保険 地域包括ケアについて 【授業形態】 講義 【到達目標】 介護保険の概要を理解する。地域で実施されるようになった、介護予防事業について、歯科保健と関連させて理解する。		
6	【授業単元】 食品保健・食中毒 【授業形態】 講義 【到達目標】 食中毒、食品の衛生管理を知り、健康維持を考える。			14	【授業単元】 精神保健 国際保健 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害者の概念を理解し、障害者対策について考える。国際交流、国際貢献を考え国際保健を理解する。		
7	【授業単元】 疫学について 疫学の方法について 【授業形態】 講義 【到達目標】 予防医学の最大の支柱の一つである疫学の意義と方法論を理解させ、それを日常活用できるよう育成を心がける。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する。		
8	【授業単元】 中間試験 地域保健 【授業形態】 【到達目標】 これまでの学修項目に対する到達度を評価するための試験を行う。地域社会の人々に対する健康生活のための地域保健の意義を把握し、健康的な生活を行うための教育活動を学ぶ。			【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法:多肢選択式、記述式による筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法:多肢選択式、記述式による筆記試験 最終評価は中間と定期の合計100点満点で行う。			
【特記事項】 日常における健康問題について常に情報を得よう努力する。							

科目名 (英)	歯科衛生学総論 (Introduction to dental hygiene)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 1時限(1組) 2時限(2組)
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 歯科衛生士(臨床経験17年、教員歴4年) 自分の進路選択をする際に思い描いた「なりたい歯科衛生士」を育て膨らますことで、学習意欲を高めてもらいたい。 また、クラスメートの「なりたい歯科衛生士」を聞き、他者理解のベースを作ってもらいたい。 これからの3年間に向けて、学習法の基本も身に付けてほしい。また、積極的に授業へ参加し、経験や時間を大切にしてほしい。							
【到達目標】 歯科衛生士を目指す学生が、保健・医療・福祉に関わることの意義を見つけ、専門職として必要なことは何か、また対象者のニーズの把握の仕方、歯科衛生士業務の考え方や行動の仕方を理解し仕事をするものの意義を考えることができるようになる。 歯科衛生士の法律や業務を深く知ることで、将来なりたい歯科衛生士像を明確にする。							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論 歯科衛生学辞典				【授業外における学習】 指定されたページを読んでから授業に臨んでください。(予習) わからない単語や意味にマーカーを引いてから参加してください。歯科用語に限らず、単語を調べる習慣づけができるようにしましょう。(復習)			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯科衛生学とは 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科衛生学の定義を知り、歯科衛生活動と健康の関わりを述べることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 歯科衛生士の業務 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科衛生士法に位置づけられる歯科衛生士の業務を深く理解し、説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 歯科衛生活動のための理論 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 予防の概念の項目が列挙できる。 項目の内容が説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 歯科衛生過程 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科衛生業務において、歯科衛生過程を活用する意義が説明できる。 歯科衛生過程の構成要素を列挙できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 歯科衛生士の業務 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 医療安全の視点で歯科医院の場面で発生する危険を列挙できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 歯科衛生士と医療倫理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 医の倫理、歯科衛生士と倫理について、関連する用語について説明する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 歯科衛生士の活動と組織 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科衛生士の活動の領域、就業の推移を把握し、自分の将来活躍する姿を言語化する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 科目の到達を確認する。				【評価方法について】 小テスト: 毎回 実施方法: 発表、レポート、筆記 中間試験(40点満点) 第4回目 定期試験(60点満点) 第8回目 実施方法: 筆記		
【特記事項】 毎回の小テストを行います。試験対策に活用してください。							

科目名 (英)	歯科臨床概論 (Introduction to Clinical Dentistry)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 1組1時限/2組2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 30年以上の開業医での臨床経験と米国の大学病院での臨床研修を踏まえて過去から現在そして未来の歯科展望を希望をもってお伝えできればと考えております。また江戸川区歯科医師会で公衆衛生を担当する立場から70万人を抱える江戸川区のような地域で区の歯科衛生士や歯科医師会がいかなる対策を講じてよりよい口腔内環境作りに奔走しているか現場の生の声をお伝えしたいと思っております。そして、口腔内環境が全身に及ぼす影響が多く伝えられるなか歯科衛生士の役割が特に重要視され大いに活躍の場が与えられていることを認識していただき、これからの勉学の糧にしていただけるよう励んでいくつもりです。							
【到達目標】 歯科衛生士さんの仕事内容にどのようなものがあるか大まかにでも理解していただければと思っています。そのためにも歯科医院の仕組みや、臨床の流れ、歯科衛生士さんがどのような業務を行っているかを理解していただければと思っています。また歯科治療が歯科医師を中心としてチームで患者さんに対していき患者さんの口腔内にとどまらず全身にも多大な影響を及ぼすことを理解していただきたい							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士のための歯科臨床概論				【授業外における学習】 専門用語がたくさんあります。教科書にあらかじめ目を通しておいください			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯科診療と歯科診療所 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科診療について大まかにわかるようにする。 歯科診療所に関わる人にはどんな人がい説明できるようにする				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 歯科診療所における安全管理と業務について 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科診療所における安全管理について説明できるようにする。 インフォームド・コンセントについて説明できるようにする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 歯科診療の流れについて 【授業形態】 講義 【到達目標】 ライフステージと歯科診療について説明できる。歯科診療時の審査、検査、前処置について説明できるようにする。また歯科衛生士の役割について				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験・小児歯科、矯正歯科の概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児歯科、矯正歯科についておおまかに説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 歯科保存、歯周治療の概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科保存学で扱う歯治療について大まかに説明できる。歯周治療の概要について大まかに説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 口腔外科、歯科補綴の概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔外科ではどのようなことを行うのか大まかに理解する。冠橋義歯や、有床技師について大まかに説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 障害者歯科・高齢者歯科の概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害者歯科と高齢者歯科について大まかに説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【評価方法について】 中間試験(40点満点)と定期試験(60点満点)の合計100点満点で評価します。毎回の小テストをよく復習しましょう。		
【特記事項】							

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅰ (Prophylactic TreatmentⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日1・2時限(1組)3・4時限(2組)
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として長きに渡り、歯牙及び口腔の疾患の予防処置に取り組み、地域住民の健康増進に貢献してきた教員が、歯科衛生士のスペシャリストを目指す学生に、歯科予防処置の目的、重要性の確認と、専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行う。 歯科衛生士としてのやりがいや各処置の重要性を見つけ、医療従事者として必要なことは何かを考えながら受講してほしい。 実習がメインとなる授業のため、遅刻・欠席はできるだけせず、予習・復習をしっかりとって授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的な知識、技術および態度を習得する。 チーム医療、チーム歯科医療の一員としての歯科衛生士の役割を知ることができる。 人々のニーズに合った支援のため、歯科衛生のアセスメント・診断・計画立案・介入・評価そして記録ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論				【授業外における学習】 講義・演習授業では専門用語が頻繁に出てくるため、毎回の授業の復習をすること。 実習授業では、講義の復習をして臨み、授業後は振り返りをしっかり行うこと。 足りない部分は、放課後などを使い自主練をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯科予防処置と概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科衛生士の法的位置づけを説明できる 歯科予防処置の定義を説明できる			9	【授業単元】 エキスプローラーについて 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 使用目的・使用法を説明できる 種類と特徴を説明できる		
2	【授業単元】 口腔の基礎知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 正常な口腔の構成要素を列挙できる 歯周組織の構成要素を列挙できる			10	【授業単元】 エキスプローリング 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 把持・固定ができる エキスプローラーの挿入・ストロークができる		
3	【授業単元】 付着物と沈着物 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔内の付着物・沈着物を列挙できる 各付着物。沈着物の特徴を説明できる			11	【授業単元】 プローブについて 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 プローブによって得られる情報を列挙できる プローブの使い方を説明できる		
4	【授業単元】 ブラーク・歯石 【授業形態】 講義 【到達目標】 ブラーク・歯石の成分を説明できる ブラーク・歯石の分類ができる			12	【授業単元】 ブローピング 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 15～25gのブローピング圧の感覚を掴むことができる メモリの読み方を実践できる		
5	【授業単元】 う蝕の基礎知識 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 う蝕の分類および原因とプロセスを説明できる			13	【授業単元】 歯の動揺度 【授業形態】 講義 【到達目標】 Millerの分類を説明できる		
6	【授業単元】 歯周病の基礎知識 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯周病の分類および原因とプロセスを説明できる			14	【授業単元】 歯の動揺度 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 ピンセットの使い、動揺度の測定ができる		
7	【授業単元】 歯・歯周組織の検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯・歯周組織の検査法を列挙できる 情報整理を総合的に行う意義を説明できる			15	【授業単元】 中間試験/口臭について 【授業形態】 講義 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、後半の授業に向け復習ができる 口臭の分類を説明できる		
8	【授業単元】 ポジショニング・ミラーテクニック 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 術者姿勢を説明できる 患者の位置(マキシングアングル、ヘッドローテーション)を説明できる 各ポジションをとることができる ミラーの役割を説明できる ミラーテクニックを実践できる			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法: 筆記 定期試験(60点満点) 実施方法: 筆記			
【特記事項】 毎授業において教科書を持参すること。 講義においてノートをとること。 実習時は規定の身だしなみを守ること。							

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅰ (Prophylactic TreatmentⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分	前期
						曜日・時間	木曜日1・2時限(1組)3・4時限(2組)
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として長きに渡り、歯牙及び口腔の疾患の予防処置に取り組み、地域住民の健康増進に貢献してきた教員が、歯科衛生士のスペシャリストを目指す学生に、歯科予防処置の目的、重要性の確認と、専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行う。 歯科衛生士としてのやりがいや各処置の重要性を見つけ、医療従事者として必要なことは何かを考えながら受講してほしい。 実習がメインとなる授業のため、遅刻・欠席はできるだけせず、予習・復習をしっかりとって授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的な知識、技術および態度を習得する。 チーム医療、チーム歯科医療の一員としての歯科衛生士の役割を知ることができる。 人々のニーズに合った支援のため、歯科衛生のアセスメント・診断・計画立案・介入・評価そして記録ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論				【授業外における学習】 講義・演習授業では専門用語が頻繁に出てくるため、毎回の授業の復習をすること。 実習授業では、講義の復習をして臨み、授業後は振り返りをしっかり行うこと。 足りない部分は、放課後などを使い自主練をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
16	【授業単元】 手用スケーラーについて 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 スケーリングとは何か説明することができる 手用スケーラーの構造を説明できる			24	【授業単元】 シックル型スケーラー到達度チェック 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 苦手な部位を把握し、全額の操作が正しくできる (ポジショニング・把持・固定・使用スケーラー)		
17	【授業単元】 シックル型スケーラーについて 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 シックル型スケーラーの特徴・使用目的を説明できる 把持・ストローク・運動を実践できる			25	【授業単元】 キュレット型スケーラーについて 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 キュレット型スケーラーの特徴・使用目的を説明できる キュレット型スケーラーの種類を列挙できる 把持・ストローク・運動を実践できる		
18	【授業単元】 シックル型スケーラー操作法① 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 上顎前歯部の操作・ポジショニングを実践できる			26	【授業単元】 キュレット型スケーラー(グレーシータイプ)操作法① 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 上顎前歯部の操作・ポジショニングを実践できる		
19	【授業単元】 シックル型スケーラー操作法② 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 下顎前歯部の操作・ポジショニングを実践できる			27	【授業単元】 キュレット型スケーラー(グレーシータイプ)操作法② 【授業形態】 マネキン実習 【到達目標】 下顎前歯部の操作・ポジショニングを実践できる		
20	【授業単元】 シックル型スケーラー操作法③ 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 上顎右側臼歯部の操作・ポジショニングを実践できる			28	【授業単元】 キュレット型スケーラー(グレーシータイプ)操作法③ 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 上顎右側臼歯部の操作・ポジショニングを実践できる		
21	【授業単元】 シックル型スケーラー操作法④ 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 上顎左側臼歯部の操作・ポジショニングを実践できる			29	【授業単元】 キュレット型スケーラー(グレーシータイプ)操作法④ 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 上顎左側臼歯部の操作・ポジショニングを実践できる		
22	【授業単元】 シックル型スケーラー操作法⑤ 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 下顎右側臼歯部の操作・ポジショニングを実践できる			30	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、後期に向け復習ができる 実技面においても課題を把握し、復習することができる		
23	【授業単元】 シックル型スケーラー操作法⑥ 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 下顎左側臼歯部の操作・ポジショニングを実践できる			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法: 筆記 定期試験(60点満点) 実施方法: 筆記			
【特記事項】 毎授業において指示したことはメモをとること。 講義においてノートをとること。							

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅱ (Prophylactic TreatmentⅡ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日1・2/3・4限
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として長きに渡り、歯牙及び口腔の疾患の予防処置に取り組み、地域住民の健康増進に貢献してきた教員が、歯科衛生士のスペシャリストを目指す学生に、歯科予防処置の目的、重要性の確認と、専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行う。 歯科衛生士としてのやりがいや各処置の重要性を見つけ、医療従事者として必要なことは何かを考えながら受講してほしい。 実習がメインとなる授業のため、遅刻・欠席はできるだけせず、予習・復習をしっかりとって授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的な知識、技術および態度を習得する。 チーム医療、チーム歯科医療の一員としての歯科衛生士の役割を知ることができる。 人々のニーズに合った支援のため、歯科衛生のアセスメント・診断・計画立案・介入・評価そして記録ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論				講義・演習授業では専門用語が頻繁に出てくるため、毎回の授業の復習をすること。 実習授業では、講義の復習をして臨み、授業後は振り返りをしっかり行うこと。 足りない部分は、放課後などを使い自主練をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 キュレット型スケーラー(グレーシータイプ)操作法④ 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 下顎前歯部の操作・ポジショニングを実践できる			9	【授業単元】 口腔内診査①(上顎) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 口腔内を観察し、情報を収集できる 口腔内消毒の目的を説明できる エキスポローリング、ブローピング、動揺度を実践できる 診査票の記入ができる		
2	【授業単元】 キュレット型スケーラー(グレーシータイプ)操作法⑤ 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 下顎右側臼歯部の操作・ポジショニングを実践できる			10	【授業単元】 口腔内診査①(上顎) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 口腔内を観察し、情報を収集できる 口腔内消毒の目的を説明できる エキスポローリング、ブローピング、動揺度を実践できる 診査票の記入ができる		
3	【授業単元】 キュレット型スケーラー(グレーシータイプ)操作法⑥ 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 下顎左側臼歯部の操作・ポジショニングを実践できる			11	【授業単元】 口腔内診査②(下顎) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 口腔内を観察し、情報を収集できる 口腔内消毒の目的を説明できる エキスポローリング、ブローピング、動揺度を実践できる 診査票の記入ができる		
4	【授業単元】 手用スケーラーまとめ 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 各種スケーラーの特徴、操作方法を説明できる 全顎の操作が正しくできる (ポジショニング・把持・固定・使用スケーラー)			12	【授業単元】 口腔内診査②(下顎) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 口腔内を観察し、情報を収集できる 口腔内消毒の目的を説明できる エキスポローリング、ブローピング、動揺度を実践できる 診査票の記入ができる		
5	【授業単元】 キュレット到達度チェック 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 苦手な部位を把握し、全顎の操作が正しくできる (ポジショニング・把持・固定・使用スケーラー)			13	【授業単元】 歯石除去①(上顎右側臼歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シッケル型スケーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 上顎右側臼歯部の歯面研磨ができる		
6	【授業単元】 キュレット到達度チェック 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 苦手な部位を把握し、全顎の操作が正しくできる (ポジショニング・把持・固定・使用スケーラー)			14	【授業単元】 歯石除去①(上顎右側上臼歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シッケル型スケーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 上顎右側臼歯部の歯面研磨ができる		
7	【授業単元】 歯面研磨 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯面研磨の目的・特徴・有効性を説明できる 使用器材を列挙できる 操作手順を説明できる			15	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、2年生に向け復習ができる 実技面においても課題を把握し、復習することができる		
8	【授業単元】 歯面研磨 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 マネキン上で全顎の歯面研磨を実施できる 研磨部位に応じた器材の選択ができる			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法: 筆記 定期試験(60点満点) 実施方法: 筆記			
【特記事項】 毎授業において指示したことはメモをとること。 講義においてノートをとること。							

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅱ (Prophylactic TreatmentⅡ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日1・2/3・4限
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として長きに渡り、歯牙及び口腔の疾患の予防処置に取り組み、地域住民の健康増進に貢献してきた教員が、歯科衛生士のスペシャリストを目指す学生に、歯科予防処置の目的、重要性の確認と、専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行う。 歯科衛生士としてのやりがいや各処置の重要性を見つけ、医療従事者として必要なことは何かを考えながら受講してほしい。 実習がメインとなる授業のため、遅刻・欠席はできるだけせず、予習・復習をしっかりとって授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的な知識、技術および態度を習得する。 チーム医療、チーム歯科医療の一員としての歯科衛生士の役割を知ることができる。 人々のニーズに合った支援のため、歯科衛生のアセスメント・診断・計画立案・介入・評価そして記録ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論				【授業外における学習】 講義・演習授業では専門用語が頻繁に出てくるため、毎回の授業の復習をすること。 実習授業では、講義の復習をして臨み、授業後は振り返りをしっかり行うこと。 足りない部分は、放課後などを使い自主練をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
16	【授業単元】 歯石除去②(上顎前歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シックル型スクレーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 上顎前歯部の歯面研磨ができる			24	【授業単元】 歯石除去⑥(下顎右側臼歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シックル型スクレーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 下顎左側臼歯部の歯面研磨ができる デンタルフロスを使用して歯間部の清掃ができる グレーシー型キュレットの操作ができる		
17	【授業単元】 歯石除去②(上顎前歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シックル型スクレーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 上顎前歯部の歯面研磨ができる			25	【授業単元】 歯石除去⑥(下顎右側臼歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シックル型スクレーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 下顎左側臼歯部の歯面研磨ができる デンタルフロスを使用して歯間部の清掃ができる グレーシー型キュレットの操作ができる		
18	【授業単元】 歯石除去③(上顎左側臼歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シックル型スクレーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 上顎左側臼歯部の歯面研磨ができる デンタルフロスを使用して歯間部の清掃ができる			26	【授業単元】 パワー(機械的)スクレーラー 【授業形態】 講義 【到達目標】 超音波スクレーラーとエアスクレーラーの種類と特徴、使用方法を説明できる		
19	【授業単元】 歯石除去③(上顎左側臼歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シックル型スクレーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 上顎左側臼歯部の歯面研磨ができる デンタルフロスを使用して歯間部の清掃ができる			27	【授業単元】 超音波スクレーラー 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 マネキン上で超音波スクレーラーの操作ができる		
20	【授業単元】 歯石除去④(下顎左側臼歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シックル型スクレーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 下顎左側臼歯部の歯面研磨ができる デンタルフロスを使用して歯間部の清掃ができる			28	【授業単元】 超音波スクレーラー(全額) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 超音波スクレーラーを使用し、付着物・沈着物の除去ができる 患者さんに配慮した施術ができる		
21	【授業単元】 歯石除去④(下顎左側臼歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シックル型スクレーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 下顎左側臼歯部の歯面研磨ができる デンタルフロスを使用して歯間部の清掃ができる			29	【授業単元】 超音波スクレーラー(全額) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 超音波スクレーラーを使用し、付着物・沈着物の除去ができる 患者さんに配慮した施術ができる		
22	【授業単元】 歯石除去⑤(下顎前歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シックル型スクレーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 下顎左側臼歯部の歯面研磨ができる デンタルフロスを使用して歯間部の清掃ができる グレーシー型キュレットの操作ができる			30	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをして復習する		
23	【授業単元】 歯石除去⑤(下顎前歯部) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 シックル型スクレーラーを使用して付着物・沈着物を除去できる 下顎左側臼歯部の歯面研磨ができる デンタルフロスを使用して歯間部の清掃ができる グレーシー型キュレットの操作ができる			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法: 筆記 定期試験(60点満点) 実施方法: 筆記			
【特記事項】 毎授業において指示したことはメモをとること。 講義においてノートをとること。							

科目名 (英)	歯科保健指導論Ⅰ (Dental Hygiene InstructionⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 3時限(1組)2時限(2組)
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 歯科衛生士として15年以上の臨床経験、講習会講師なども経験した教員が、演習や講義を行います。歯科衛生士として行う保健指導に必要な、口腔清掃方法の基礎知識や技術を習得します。また、ライフステージ別介入では、乳児から高齢者まで幅広い年代の方の特徴を学びます。実践的な経験を通して、画一的な指導でなく個人の生活背景や気持ちを考慮した保健指導が行えるようになってほしい。							
【到達目標】 さまざまな口腔清掃用具の種類や特徴等を深く学び、個々に適した歯科保健指導が実施できるようになる。 各ライフステージの特徴や課題を理解し、各年代に適した歯科保健指導ができるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版				【授業外における学習】 先にテキストを読んでおく。 身の回りの歯科商品や食品にどのようなものがあるのか興味をもつ			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯科保健指導の概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科保健指導の必要性や位置づけが理解できる 健康や予防の概念を説明できる			9	【授業単元】 対象別指導法① 妊産婦期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導ができる		
2	【授業単元】 口腔清掃法(歯ブラシ) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各種歯ブラシについてその用途を理解し、取り扱うことができる			10	【授業単元】 対象別指導法② 乳児期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導ができる		
3	【授業単元】 口腔清掃法(ブラッシング法) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各種ブラッシング方法について特徴を理解し、操作できるようになる 各種ブラッシング法を患者指導することができるようになる			11	【授業単元】 対象別指導法③ 幼児期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導ができる		
4	【授業単元】 歯磨剤、洗口液、保湿剤 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯磨剤の選択や使用方法について説明できる 洗口液の種類や使用方法を理解し、指導できる 保湿剤の使用法を理解し、指導できる			12	【授業単元】 対象別指導法④ 学齢期・青年期(前半) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導ができる		
5	【授業単元】 補助的清掃用具① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各種清掃器具について用途を理解し、操作できるようになる 清掃用具の使用上の注意を説明できる			13	【授業単元】 対象別指導法⑤ 青年期(後半)・成人期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導ができる		
6	【授業単元】 補助的清掃用具② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各種清掃器具について用途を理解し、操作できるようになる 清掃用具の使用上の注意を説明できる			14	【授業単元】 対象別指導法⑤ 老年期(配慮を要する者への介入) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導ができる		
7	【授業単元】 歯垢染色剤 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯垢染色剤について用途を理解し、操作できるようになる 歯垢染色剤の使用上の注意を説明できる			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 本科目の到達目標の到達度の確認を行い、習熟度を判断する		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 本科目の到達目標の到達度の確認を行い、習熟度を判断する			【評価について】 評価は筆記試験や実技で行う。授業内で確認した専門的な知識、技術の理解、定着度を確認する。 課題などの提出物、出欠、授業態度等も加味する。 試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 配布した資料は毎回準備する。 わからない用語調べておく。							

科目名 (英)	歯科保健指導論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Dental Hygiene InstructionⅡ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	後期
学科・専攻	歯科衛生士科					曜日・時間	1組:火曜日 2時限 / 2組:水曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 歯科衛生士として15年以上の臨床経験、講習会講師なども経験した教員が、演習や講義を行います。 より専門的な用語や専門知識が増えますが、患者さんへ説明する時には専門用語をわかりやすい言葉に言い換えることが必要であるため、普段から意識して欲しい。ライフステージ別介入では、乳児から高齢者まで幅広い年代の方の特徴を学びます。実践的な経験を通して相手の立場や気持ちをイメージできるように、想像力を働かせてほしい。							
【到達目標】 歯科衛生アセスメントとしての情報収集の種類や手法を学び、分析や評価ができる。 各ライフステージの特徴や課題を理解し、各年代に適した歯科保健指導ができるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版				【授業外における学習】 先にテキストを読んでおく。 自分自身や身近な人の口腔内、生活背景を意識する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 INDEX①(PCR) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ○データの必要性を理解し、算出できる 対象歯、判定基準がわかる			9	【授業単元】 対象別指導法① 妊産婦期・乳児期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導ができる		
2	【授業単元】 INDEX②(OHI, OHI-S) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ○データの必要性を理解し、算出できる 対象歯、判定基準がわかる			10	【授業単元】 対象別指導法② 幼児期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導ができる		
3	【授業単元】 INDEX③(PII, PHP) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ○データの必要性を理解し、算出できる 対象歯、判定基準がわかる			11	【授業単元】 対象別指導法③ 学齢期・青年期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導ができる		
4	【授業単元】 INDEX④(PMA, PI, GI, PDI) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ○データの必要性を理解し、算出できる 対象歯、判定基準がわかる			12	【授業単元】 対象別指導法④ 成人期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導ができる		
5	【授業単元】 INDEX⑤(GB Count, CPI、根分岐部検査) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ○データの必要性を理解し、算出できる 対象、判定基準がわかる			13	【授業単元】 対象別指導法⑤ 老年期・配慮を要する人 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる BDRについて説明ができる 要介護・障害者・被災者への適切な歯科保健指導ができる		
6	【授業単元】 INDEX⑥(DMF、口臭、舌苔) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ○データの必要性を理解し、算出できる 対象、判定基準がわかる			14	【授業単元】 地域歯科保健活動における健康教育 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 健康教育の対象や概要を説明できる 健康教育活動の方法を説明できる 小学校歯みがき教室の原案が作成できる		
7	【授業単元】 口腔機能(咀嚼、嚥下など)の評価 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ○データの必要性を理解し、算出できる 対象、判定基準がわかる			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標の到達度の確認を行い、習熟度を判断する		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標の到達度の確認を行い、習熟度を判断する			【評価について】 評価は筆記試験や実技で行う。授業内で確認した専門的な知識、技術の理解、定着度を確認する。 課題などの提出物、出欠、授業態度等も加味する。 試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 配布した資料は毎回持参しておくこと。 わからない用語はすぐに調べる。							

科目名 (英)	栄養指導 (Nutrition)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 1組1時限/2組2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
歯科と栄養学の関係について教育・研究を行ってきた大学(日本大学松戸歯学部)教員(歯科医師, 歯科衛生士)が授業を担当する。健康増進法, 食育基本法, 健康日本21(第2次)などにおいて, 生活習慣病が重要な課題であり, その対策をうたっており, これらの施策を理解する。また, 国民の栄養状態や食事摂取基準を説明できるようにする。歯科疾患と栄養, 健康の関連についても理解する。							
【到達目標】							
口腔の健康は食事をするためには必要不可欠であり, いかにバランスよく適度に栄養を摂取するかについて説明できるようになる。栄養の基礎から学び, 栄養に関する正しい知識を身につけ, 説明できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
人体構造と機能2『栄養と代謝』				授業で修得した知識を参考にして, 日常摂取する食品の選択, 食品に表示されている項目の内容について, 不明な点は調べる, 次回授業で質問するなど行う。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 糖質の役割について タンパク質の役割について 【授業形態】 講義 【到達目標】 食品から摂取している糖質, タンパク質について, 生体での役割を理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 食品から摂取している脂質について, 生体での役割を理解する。 【授業形態】 講義 【到達目標】 食品から摂取している脂質について, 生体での役割を理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 ビタミン・ミネラルの役割について 水と食物繊維について 【授業形態】 講義 【到達目標】 ビタミン, ミネラルの種類および個々の働きについて理解する。水と食物繊維についても理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 栄養素の消化と吸収について 中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 栄養素の消化と吸収を理解する。これまでの学修項目について到達度を確認する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 食事摂取基準について 基礎代謝について 【授業形態】 講義 【到達目標】 食事摂取基準とは何かを知り, 推定エネルギー必要量の求め方, 摂取量の評価方法, 基礎代謝について理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 食生活と健康について 【授業形態】 講義 【到達目標】 現在の食生活状況を理解する。食生活と健康との関連について把握し, 健康の維持・増進を進めるための栄養指導の必要性について理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 ライフステージ別の栄養と調理について 【授業形態】 講義 【到達目標】 乳幼児期・学童期・成人期・高齢期の栄養と調理について理解を深める。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い, 習熟度を判断する。			【評価方法について】 筆記試験(多肢選択式, 記述式)により, 到達度を確認する。中間試験40点と定期試験60点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							
各授業における内容について, 該当部の教科書を予習し, 授業中に配布されたプリントには書き込みを行い, 教科書, プリント共に活用し, 復習する。							

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Assisting for Dental PracticeⅠ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 1組:3・4時限 2組1・2時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として臨床経験のある教員が、歯科臨床の場において必要な診療補助の授業を行う。 様々なライフステージにおける高度歯科医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する基礎知識、技術、および態度を身につける。 特に診療補助論Ⅰでは清潔域、不潔域、手指消毒などすべての実習における基本事項となる項目が多いので、基礎をしっかりと身につくように繰り返し確認を行うようにします。							
【到達目標】 歯科診療における医療安全のために基本となる感染予防の知識を習得する 歯科予防処置や保健指導でも基本となるポジショニングやバキュームテクニックを習得する							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎				【授業外における学習】 実習前には講義の内容を確認し、何を何のために実習するのかを把握する。 実習後は教科書、配布資料を見直し、実習の内容を復習することが望ましい			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1.2	【授業単元】 歯科診療の概念 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科衛生士の行う歯科診療の補助が説明できる 歯科診療の補助が説明できる 歯科診療で使用する器具の適切な把持法			16.17	【授業単元】 バキュームテクニック・スリーウェイシリンジについて① 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 バキュームの種類が説明できる バキュームテクニックの際の禁忌部位について列挙することができる スリーウェイシリンジの使い方について列挙することができる		
3.4	【授業単元】 感染症・滅菌について 【授業形態】 講義 【到達目標】 医療安全の概念とその対策を説明できる スタンダードプレコーションについて 滅菌と消毒の定義が説明できる			18.19	【授業単元】 バキュームテクニック・スリーウェイシリンジについて② 【授業形態】 ユニット演習(相互実習) 【到達目標】 バキュームテクニック、ミラーテクニックを実施できる スリーウェイシリンジテクニックを実施できる 歯科診療室において清潔域、不潔域の区別が実施できるようになる 患者の安全には医療した誘導ができるようになる		
5.6	【授業単元】 衛生材料の作製 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 歯科衛生材料について列挙できる 洗浄用綿球、塗布用綿球、ブローチ綿栓の作製 歯科器具の適切な取り扱いができる			20.21	【授業単元】 バキュームテクニック・スリーウェイシリンジについて③ 【授業形態】 ユニット演習(相互実習) 【到達目標】 バキュームテクニック、ミラーテクニックを実施できる スリーウェイシリンジテクニックを実施できる 歯科診療室において清潔域、不潔域の区別が実施できるようになる 患者の安全には医療した誘導ができるようになる		
7.8	【授業単元】 医療安全① 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 手指衛生と個人防護具の装着、脱着 危険予知訓練を説明できる 手指消毒やグローブの装着・脱着			22.23	【授業単元】 ラバーダム防湿① 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 ラバーダム防湿の目的を説明できる ラバーダム防湿用の器具の名称と用途が説明できる ラバーダム防湿の手順を述べることができる 上下顎第一大臼歯にラバーダム防湿を行うことができる		
9.10	【授業単元】 医療安全②(実技試験) 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 手指衛生と個人防護具の装着、脱着 手指消毒やグローブの装着・脱着 手指衛生と個人防護具の実技試験			24.25	【授業単元】 ラバーダム防湿② 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 ラバーダム防湿の手順を述べることができる 上下顎第一大臼歯にラバーダム防湿を行うことができる 2歯露出法を行うことができる 多数歯露出法を行うことができる		
11.12	【授業単元】 歯科診療室の基礎知識 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 歯科診療室の環境、設備について 歯科用チェアユニット各部の名称と使用時の注意点について 共同動作と適切なポジショニングが実践できる			26.27	【授業単元】 ラバーダム防湿③ 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 ラバーダム防湿の手順を述べることができる 上下顎第一大臼歯にラバーダム防湿を行うことができる 2歯露出法を行うことができる 多数歯露出法を行うことができる		
13.14	【授業単元】 歯科用ユニットの取り扱い フォーハンドットデンティストリー 【授業形態】 講義 ユニット演習(株)ヨシダ 【到達目標】 歯科用ユニットの操作方法を習得する 器具の取り扱いや受け渡しができる フォーハンドットデンティストリーができる			28.29	【授業単元】 ラバーダム防湿④(実技試験) 【授業形態】 講義 実技試験 【到達目標】 第一大臼歯にラバーダム防湿を行うことができる		
15	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 筆記テスト 講義(患者誘導について) 【到達目標】 歯科診療において患者の対応を理解する			30	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 筆記テスト 解答解説 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する		
【特記事項】				評価は筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識、技術の理解、定着度を 確認する。 筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる			

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅱ (Assisting for Dental PracticeⅡ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 1組水曜日3.4時限/2組:火曜日1.2時限
学科・コース	歯科衛生士科						
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として臨床経験のある教員が、歯科臨床の場において必要な診療補助の授業を行う。 各種歯科材料の特徴や用途の知識を習得していることは後に臨床の場で大変に役立てることができますし、技術の向上の点でも差がでる所です。臨床の場での評価にもつながる項目です。特に実習時に習得する材料の取り扱い方は重要ですので実習時にしっかりと習得して下さい。 相互実習が多いので欠席や忘れ物のないようにして下さい。							
【到達目標】 歯科材料の用途、特徴が説明できるようになる(特に3大材料の種類と特徴) 概形印象採得を習得し研究用模型作成を行う							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎				【授業外における学習】 実習前には講義の内容を確認し、何を何のために実習するのかを把握する。 実習後は教科書、配布プリントを見直し、実習の内容を復習することが望ましい			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1.2	【授業単元】ラバーダム防湿 【授業形態】相互演習① 【到達目標】 下顎第一大臼歯にラバーダム防湿を行うことができる			16.17	【授業単元】歯科材料(寒天印象材) 【授業形態】講義 演習 【到達目標】 アルジネート印象材＋寒天印象材による連合印象が模倣できる 連合印象採得時におけるアシスタントワークを習得する		
3.4	【授業単元】ラバーダム防湿 【授業形態】相互演習② 【到達目標】 下顎第一大臼歯にラバーダム防湿を行うことができる			18.19	【授業単元】歯科材料(歯科用石膏・模型材①) 【授業形態】講義 演習 【到達目標】 片顎の印象採得が実施できる 適切に歯科用石膏の取り扱いができて練和、注入も行える 片顎の模型の作成を習得する		
5.6	【授業単元】歯科材料(各種印象材) 【授業形態】講義 演習 【到達目標】 印象材の特徴、種類、用途を説明できる ハイドロコロイド印象材の種類と特徴が説明できる 嘔吐反射時の対応について 適切に片顎の印象採得が実施できる			20.21	【授業単元】歯科材料(歯科用石膏・模型材②) 【授業形態】講義 演習 【到達目標】 全顎の印象採得が実施できる 適切に歯科用石膏の取り扱いができて練和、注入も行える 全顎研究用模型の作成を習得する		
7.8	【授業単元】印象採得(アルジネート印象材①) 【授業形態】講義 演習 【到達目標】 印象材の特徴、種類、用途を説明できる アルジネート印象材の練和を適切に行える 適切に片顎と全顎の印象採得が実施できる			22.23	【授業単元】歯科材料(歯科用石膏・模型材②) 【授業形態】相互演習(上顎スタディモデルの作製) 【到達目標】 口腔内の全顎の印象採得が実施できる 適切に歯科用石膏の取り扱いができて練和、注入も行える 各自、全顎研究用模型の作成を習得する		
9.10	【授業単元】印象採得(アルジネート印象材②) 【授業形態】講義 演習 【到達目標】 印象材の特徴、種類、用途を説明できる アルジネート印象材の練和を適切に行える 適切に片顎と全顎の印象採得が実施できる			24.25	【授業単元】歯科材料(歯科用石膏・模型材②) 【授業形態】相互演習(下顎スタディモデルの作製) 【到達目標】 口腔内の全顎の印象採得が実施できる 適切に歯科用石膏の取り扱いができて練和、注入も行える 各自、全顎研究用模型の作成を習得する		
11.12	【授業単元】印象採得(アルジネート印象材③) 【授業形態】講義 演習 【到達目標】 印象材の特徴、種類、用途を説明できる アルジネート印象材の練和を適切に行える 適切に片顎と全顎の印象採得が実施できる			26.27	【授業単元】仮封材の基礎知識と取り扱い① 【授業形態】講義 演習 【到達目標】 各種仮封材の種類と特徴を説明できる 各種仮封材の充填を習得する 各種仮封材の取り扱いが正しく実施できる 各種仮封材の取り扱い方を説明できる		
13.14	【授業単元】印象採得(アルジネート印象材④ 実技試験) 【授業形態】講義 演習 実技試験 【到達目標】 時間内にアルジネート印象材が練和できる 全顎の印象採得を習得する 印象採得時、採得されているべき箇所を述べるができる			28.29	【授業単元】仮封材の取り扱い② 個人トレー作製 まとめ授業 【授業形態】講義 演習 【到達目標】 各種仮封材の充填を習得する 各種仮封材の取り扱いが正しく実施できる 各種仮封材の取り扱い方を説明できる 個人トレーの作製の目的を理解し、作製することができる		
15	【授業単元】中間試験 【授業形態】筆記試験 講義(寒天印象材の取り扱い) 【到達目標】 連合(精密)印象採得について理解する			30	【授業単元】定期試験 【授業形態】筆記試験 解答解説 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する		
【特記事項】				評価は筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識、技術の理解、定着度を確認する。 筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる			

科目名 (英)	歯科材料学 (Dental materials science)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 1組1時限/2組2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 歯科衛生士として臨床経験4年で、5年目を迎えます。 新人歯科衛生士の時代は歯科診療補助を中心とした業務を任されることが多く、円滑な診療の介助を心がけてきました。 多くの事を診療室で任せていただくためにはまず材料の取り扱いができる事が重要と考えています。 ミニ実習を混ぜながら、知識と技術を磨き、臨床実習に行く準備をしましょう。							
【到達目標】 診療の流れを捉えた操作ができる。 共同動作の中で、操作時間を意識した材料の取り扱いができる。 国家試験に頻出する成分や特徴を理解できる。 患者に配慮した歯科材料の取り扱いの必要性を理解し、操作できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎				【授業外における学習】 歯科診療補助論ⅠⅡの授業で理解しているものとして授業します 復習しておくようにしてください			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯科材料(歯科用セメント)の基礎・用語 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科材料の分類ができる 歯科材料の所要性質、素材が列挙できる 歯科材料の基本的性質の用語が説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 歯科用セメント(グラスアイオノマーセメント) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科用セメントの種類を述べることができる 歯科用セメントの使用器材の組合わせを理解することができる 歯科用セメントの取り扱い、練和がしっかりとできる 各歯科用セメントを理解することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 歯科用セメント(ポリカルボキシレートセメントリン酸亜鉛セメント) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科用セメントの種類を述べることができる 歯科用セメントの使用器材の組合わせを理解することができる 歯科用セメントの取り扱い、練和がしっかりとできる 各歯科用セメントを理解することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 これまでの内容が理解できているかを確認する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 歯科用セメント(酸化亜鉛ユーージノールセメント) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科用セメントの種類を述べることができる 歯科用セメントの使用器材の組合わせを理解することができる 歯科用セメントの取り扱い、練和がしっかりとできる 各歯科用セメントを理解することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 歯科用セメント(まとめ) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科用セメントの種類を述べることができる 歯科用セメントの使用器材の組合わせを理解することができる 歯科用セメントの取り扱い、練和がしっかりとできる 各歯科用セメントを理解することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 歯科用セメント(実技試験) 【授業形態】 演習 【到達目標】 歯科用セメントの種類を述べることができる 歯科用セメントの使用器材の組合わせを理解することができる 歯科用セメントの取り扱い、練和がしっかりとできる 各歯科用セメントを理解することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 これまでの内容が理解できているかを確認する				【評価方法について】 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計で評価する 筆記試験を実施する 実技の内容については、歯科診療補助論Ⅲにつながる内容になるため、 内容の理解をすること ここに挙げた材料は主要なごく一部となる 様々な材料の取り扱いができるように説明書をよく読み、正しい操作をするようになる		
【特記事項】							

科目名	歯科現場学	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1～3時限(1・2組共通)
学科・コース	歯科衛生士科						
1月2日							
歯科衛生士として臨床経験のある教員が授業を担当する。2年次から臨床現場に出るにあたって、必要なマインドやスキルの授業を行う。 保育園児や小学生とのかかわりを実践的に学ぶ。 先輩の活躍している姿や歯科医院で働く歯科衛生士を見て、在学中の目標を明確にし、自分のなりたい歯科衛生士像をイメージしてほしい。							
【到達目標】 自身の目指している歯科衛生士という職業への理解を深めることができる。 コミュニケーションスキルを向上することができる。 臨床現場に出る自覚を持つことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 地域貢献プログラム リハーサル 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 当日を意識した役割・タイムスケジュールを考えることができる。 チームで協力し、改善点を探すことができる。			9	【授業単元】 地域貢献プログラム④ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 保育園児とのコミュニケーションを積極的にとることができる。 安全を十分に配慮することができる。 好感の持てる言葉遣い、身だしなみができる。		
2	【授業単元】 歯科医院見学オリエンテーション① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科医院見学の目的を説明できる。 歯科医院見学の流れを説明できる。			10	【授業単元】 地域貢献プログラム④ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 保育園児とのコミュニケーションを積極的にとることができる。 安全を十分に配慮することができる。 好感の持てる言葉遣い、身だしなみができる。		
3	【授業単元】 歯科医院見学② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 身だしなみを整えることができる。 歯科医院での歯科衛生士の役割を説明できる。 現在の自分の課題を明確にできる。			11	【授業単元】 地域貢献プログラム⑤リハーサル 【授業形態】 講義 【到達目標】 当日の流れや自分の役割を確認できる。 本番同様の動きを確認することが出来る。		
4	【授業単元】 地域貢献プログラム① 【授業形態】 演習・演習 【到達目標】 保育士の先生から、年齢別の園児の特徴やかかわり方を学び、実演できる。			12	【授業単元】 地域貢献プログラム⑥ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 保育園児とのコミュニケーションを積極的にとることができる。 安全を十分に配慮することができる。 好感の持てる言葉遣い、身だしなみができる。		
5	【授業単元】 地域貢献プログラム② 【授業形態】 演習・演習 【到達目標】 小学生とのコミュニケーションを積極的にとることができる。 安全を十分に配慮することができる。 好感の持てる言葉遣い、身だしなみができる。			13	【授業単元】 地域貢献プログラム⑥ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 保育園児とのコミュニケーションを積極的にとることができる。 安全を十分に配慮することができる。 好感の持てる言葉遣い、身だしなみができる。		
6	【授業単元】 地域貢献プログラム③ 【授業形態】 演習・演習 【到達目標】 小学生とのコミュニケーションを積極的にとることができる。 安全を十分に配慮することができる。 好感の持てる言葉遣い、身だしなみができる。			14	【授業単元】 地域貢献プログラム⑦ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 保育園児とのコミュニケーションを積極的にとることができる。 安全を十分に配慮することができる。 好感の持てる言葉遣い、身だしなみができる。		
7	【授業単元】 地域貢献プログラム③ 【授業形態】 演習・演習 【到達目標】 小学生とのコミュニケーションを積極的にとることができる。 安全を十分に配慮することができる。 好感の持てる言葉遣い、身だしなみができる。			15	【授業単元】 地域貢献プログラム⑦ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 保育園児とのコミュニケーションを積極的にとることができる。 安全を十分に配慮することができる。 好感の持てる言葉遣い、身だしなみができる。		
8	【授業単元】 歯科医院見学③ 【授業形態】 見学 【到達目標】 身だしなみを整えることができる。 歯科医院での歯科衛生士の役割を説明できる。 現在の自分の課題を明確にできる。			【評価について】 レポート提出1: 地域貢献プログラム振り返りレポート(40点満点) レポート提出2: 歯科医院見学振り返りレポート(60点満点)			
【特記事項】							

科目名	ホワイトニング	必修 選択	選択必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 集中講義
【授業の学習内容と心構え】 現在、臨床現場でホワイトニングの施術を行っている歯科衛生士が授業を担当する。 施術前のカウンセリングに必要なコミュニケーションや、ホワイトニングの基礎知識を学ぶ。 歯科衛生士になる将来を想像し、そのための目標や自身の課題を見つけ、歯科衛生士へと一歩ずつ近づいて行ってほしい。							
【到達目標】 ホワイトニングのメカニズムを説明できる。 ホワイトニングの種類を説明できる。 ホワイトニングの施術の一連の流れを説明できる。 なぜコミュニケーション能力が必要なのか理解し、実践できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 コミュニケーションとは何か 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 コミュニケーションの大切さを説明できる。 好感の持てる身だしなみを説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 LIPエステ・口内マッサージ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 自身の口唇でLIPエステを実践できる。 口内マッサージを実践できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 審美歯科について 【授業形態】 講義 【到達目標】 審美歯科の内容を説明できる。 ホワイトニングを提案すべき症例を見分けることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 ホワイトニングについて 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ホワイトニングのメカニズムと安全性を説明できる。 ホワイトニングの種類を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 ホワイトニングの施術について 【授業形態】 講義・マネキン演習 【到達目標】 患者様にとって気持ちの良い施術を考えることができる。 マネキン上でタオルのかけ方や、ミラーの使い方、口唇のふき取りを実践できる。 シェードガイドの使用方法を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 ホワイトニング演習① 【授業形態】 マネキン演習、講義 【到達目標】 アングルワイダーを装着できる。 ホワイトニングの薬剤を混和・塗布できる。 照射器の使用方法を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 ホワイトニング演習② 【授業形態】 相互演習、講義 【到達目標】 歯面研磨ができる。 ホワイトニング施術を一連の流れでできる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 ホワイトニング演習③/定期試験 【授業形態】 相互演習、講義 【到達目標】 歯面研磨ができる。 ホワイトニング施術を一連の流れでできる。				【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法: レポート 定期試験(60点満点) 実施方法: 筆記		
【特記事項】							

科目名	小児食育	必修 選択	選択必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 集中講義
【授業の学習内容と心構え】 歯科医院に勤務する歯科医師および管理栄養士が授業を担当する。 歯と食育が密接に関わっていること、顎の発達や歯の成長段階における食事の選択について授業を行う。 実技だけでなく知識も必要であることを認識し、2年次の専門分野の講義にも積極的に参加してほしい。							
【到達目標】 食育と歯科衛生士のかかわりについて説明できる。 月齢に合った離乳食を選択・調理できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 離乳食について 【授業形態】 講義 【到達目標】 月齢ごとの口腔機能を説明できる。 月齢に合った離乳食の特徴を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 食育とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 食育とは何か説明できる。 食育における歯科衛生士の役割について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 歯科医院における栄養指導 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科視点での食育・栄養指導を討議できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 調理演習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 月齢に合わせた離乳食を調理できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 調理演習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 月齢に合わせた離乳食を調理できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 保育園訪問 準備 【授業形態】 講義 【到達目標】 保育園の1日のスケジュールを説明できる。 おやつや食事の献立の特徴を説明できる。 保育園訪問の際の注意事項を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 保育園訪問 【授業形態】 講義・見学 【到達目標】 年齢ごとの口腔内の特徴を説明できる。 食事風景を見学し、気づきを共有できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 まとめ/定期試験 【授業形態】 発表/筆記試験 【到達目標】 これまでの授業で学んだことをグループで協力しながらまとめることができる。				【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法：発表 定期試験(60点満点) 実施方法：筆記		
【特記事項】							

科目名	歯ならびコーディネート	必修 選択	選択必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 集中講義
【授業の学習内容と心構え】 矯正歯科を専門としている歯科医師が授業を担当する。 矯正歯科における歯科衛生士の役割、代表的な歯列不正や不正咬合について、今流行りのマウスピース矯正について授業を行う。 授業を通して、歯科衛生士のやりがいを感じ、歯科衛生士としての働き方を考える機会としてほしい。							
【到達目標】 矯正歯科での歯科衛生士の役割を説明できる。 代表的な歯列不正、不正咬合を説明できる。 マウスピース矯正のメリットデメリットを説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯科衛生士の役割 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科医院における歯科衛生士の役割を考えることができる。 理想の歯科衛生士になるための課題を明確にすることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 歯並びコーディネート 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯並びの及ぼす影響について説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 歯列咬合の観察 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 光学印象で得たデータをもとに自身の歯列咬合の特徴を発見できる。 その歯列咬合から問題点を見つけることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 矯正治療の計画立案 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 自身の歯列咬合に対する治療計画を立案することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 代表的な歯列不正、不正咬合 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 代表的な歯列不正を列挙できる。 不正咬合の種類を列挙できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 マウスピース矯正① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 マウスピース矯正とは何か説明できる。 マウスピース矯正のメリット・デメリットを説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 マウスピース矯正② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 マウスピース矯正とは何か説明できる。 マウスピース矯正のメリット・デメリットを説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 まとめ/定期試験 【授業形態】 発表/筆記試験 【到達目標】 全8コマの授業を復習し、まとめ、発表する。				【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法：発表 定期試験(60点満点) 実施方法：筆記		
【特記事項】							